



高等学校における「学びのUD」構築実践例②

熊本県立人吉高等学校五木分校の取組

【本スライドの流れ】

- I 取組の計画
- II 取組の実際
- III 取組の振り返り

※本スライドでは、高等学校における「学びのユニバーサルデザイン」構築事業【令和元年度（2019年度）、令和2年度（2020年度）…熊本県教育庁県立学校教育局特別支援教育課】による取組を紹介します。

I 取組の計画



I 目的及び目標

【目的】

「一人一人が輝く分校生！ ～学びのユニバーサルデザインの視点をもとに～」

ユニバーサルデザインの視点を取り入れた授業改善を行うことで、生徒の主体性の育成や対話的な言語環境の充実を図り、多様な生徒たちが互いに支え合い、充実した学校生活を送ることができるようにすることを目的とする。

- (1) 学校全体で取り組む授業づくり（モデル→学校全体）
- (2) 落ち着いて集中できる環境づくり（授業を受ける心構え）
- (3) 肯定的な人間関係づくり（互いのよさや違いを認め合う関係）

【目標】

- (1) ユニバーサルデザインを取り入れた授業改善を実践する。
- (2) 授業者と参観者双方の授業改善につながる授業研究会を実施する。
- (3) サポートチームの活用を積極的に図り、指導助言を活かし研究を深化させる。

2 内容

取組 1

授業改善の実施

取組 2

職員研修の充実

取組 3

授業研究会の実施

※その他の計画（スケジュールや校内組織）は、別紙資料をご覧ください。

Ⅱ 取組の実際



取組Ⅰ

授業改善の実施

- ア) 五木分校「学びのスタンダード（環境づくり、人間関係づくり、授業づくり）」を作成し、実践化する。
- イ) モデル授業を基に考えた授業構成を学校全体へ広げる。
- ウ) 対話的な言語活動の充実のための学習形態を検討し実践する。
- エ) 個別指導計画の活用方法を理解し実践する。
- オ) 学習環境の整備を図る。
- カ) 支持的風土のある学級づくりを実践する。

五木分校「学びのスタンダード」の作成

人吉高等学校五木分校『学びのスタンダード』

令和2年3月19日

環境づくり

- 授業開始時に「授業の心得」を明確に示している。
- 日頃から「整理整頓の仕方」を決めて指導している。
- 教室後方掲示板の「提出管理表」でわかりやすく示している。

人間関係づくり

- 一人一人の個性や違いを認め合える雰囲気や、分からないことや間違いを否定的に見ない雰囲気を作るようにしている。

授業づくり

- 単元や本時の初めに目標や学習の流れを示し、見通しを持って取り組めるようにする。
- 授業の終わりには、授業を振り返る時間を設定する。
- ねらいに応じて様々な学習形態の工夫を行っていく。
- 机間指導で、内容理解を確認したり、個に応じた指導や言葉かけをしたりしていく。
- ノートの取り方やファイル・プリントの整理の仕方等を指導していく。

「学びのUD化アンケート」の作成

「学びのUD」中間検証アンケート(案)【教員用】

1 担当教科を記入してください。(教科:)

・「環境づくり」に関する事項

2 授業開始時に「授業の心得」を明確に示し、授業を行っている。

①: 行っている ②: おおむね行っている ③: やや行っていない ④: 行っていない

「授業の心得」をどのように活用しているのか等を具体的に記入してください。

3 日頃から「整理整頓の仕方」を決めて指導している。

①: 指導している ②: おおむね指導している ③: やや指導していない ④: 指導していない

「整理整頓の仕方」をどのように指導しているのか等を具体的に記入してください。

4 教室後方掲示板(1年生教室)の「提出管理表」を活用できている。【国・数・英・理・社】

①: 活用している ②: おおむね活用している ③: やや活用していない ④: 活用していない

「提出管理表」をどのように活用しているのか等を具体的に記入してください。

・「人間関係づくり」に関する事項

5 一人一人の個性や違いを認め合える環境を作るようにしている。

①: 作っている ②: おおむね作っている ③: やや作れていない ④: 作れていない

上記の環境をどのように作っているのか等を具体的に記入してください。

6 分からないことや間違いを否定的に見ない環境を作るようにしている。

①: 作っている ②: おおむね作っている ③: やや作れていない ④: 作れていない

上記の環境をどのように作っているのか等を具体的に記入してください。

「学びのUD」化に関するアンケート

・「環境づくり」に関する事項

1 「授業の心得」を守って、授業を受けることができる。

①: できている ②: おおむねできている ③: ややできていない ④: できていない

2 日頃から「整理整頓の仕方」を意識して整理整頓できている。

①: できている ②: おおむねできている ③: ややできていない ④: できていない

3 教室後方掲示板の「提出管理表」を活用できている。【1年生のみ解答】

①: できている ②: おおむねできている ③: ややできていない ④: できていない

・「人間関係づくり」に関する事項

4 一人一人の個性や違いを認め合うことができる。

①: できている ②: おおむねできている ③: ややできていない ④: できていない

5 人が分からないことや間違いを見下したりしないようしている。

①: できている ②: おおむねできている ③: ややできていない ④: できていない

・「授業づくり」に関する事項

6 授業ごとの目標や学習の流れを理解し、見通しを持って授業を受けることができる。

①: できている ②: おおむねできている ③: ややできていない ④: できていない

7 授業の終わりに、授業を振り返ることができる。

①: できている ②: おおむねできている ③: ややできていない ④: できていない

8 色々な学習形態(話し合い活動、発表など)に参加できている。

①: できている ②: おおむねできている ③: ややできていない ④: できていない

9 個に応じた指導や言葉かけをしてもらうことができている。

①: できている ②: おおむねできている ③: ややできていない ④: できていない

10 ノートの取り方やファイル・プリントの整理ができている。

①: できている ②: おおむねできている ③: ややできていない ④: できていない

※教員用

※生徒用

取組 2

職員研修の充実

- ア) 校内研修(生徒理解、発達障がいに関する理解、分かる授業、学びのUD等)を実施する。
- イ) アンケート(事前、中間、最終)分析、課題、改善策を検討する校内研修を実施する。
- ウ) 先進校への視察研修を実施する。

令和2年（2020年）9月 「学びのUD化」研修②

※中間アンケート結果をもとに、今後取り組むべきことを話し合った。
→それぞれの思いや考えを出し合い、今後の実践に生かせるポイントを整理。



◎授業の振り返り」「ファイル・プリントの整理」について、
それらが困難な要因と、対策をそれぞれ検討した。

授業の振り返り

要因	対策
・時間が足りない	・振り返りの時間を設ける
・任されていない	・授業のポイント 復習
・やりたくない、次の授業で補う	・理解度の確認（生徒と職員）
・個人差がある	・テスト対策
・設定があいまい	・やり下感、達成感
・目標と振り返りのリンク	

具体的

- ・内容の精選と時間配分
- ・リールシートの活用
- ・生徒間での確認の時間

ファイル・プリントの整理

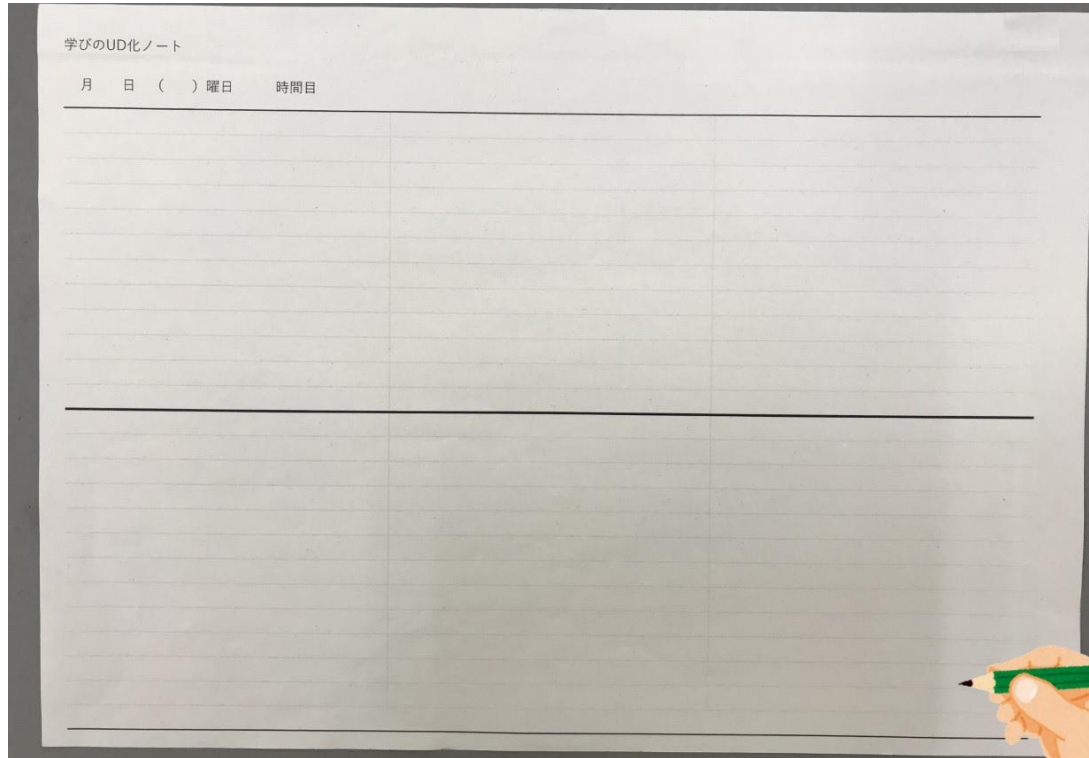
要因	対策
・板書量	・どこに何をどうするか 明確にする
・ファイルが少い	・ファイル一括で管理
・確認不足	・とる時間を作る すぐとる 番号をつける
	・欠席者への対応

授業研究会の実施

- ア) 教科の枠を超えた教科横断型の全職員による授業研究会を実施する。
- イ) 事前研を行い、共通理解を図ったうえで研究授業に臨む。
- ウ) 事後研（合評会を含む）を通して各自の実践を振り返ることで、一人一人の授業改善につなげ、授業のユニバーサルデザイン化実現へ向けて進めていく。

授業づくりにおける工夫

数学の授業で活用した「学びのUD化ノート」

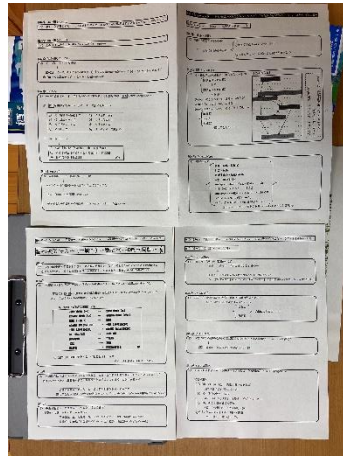
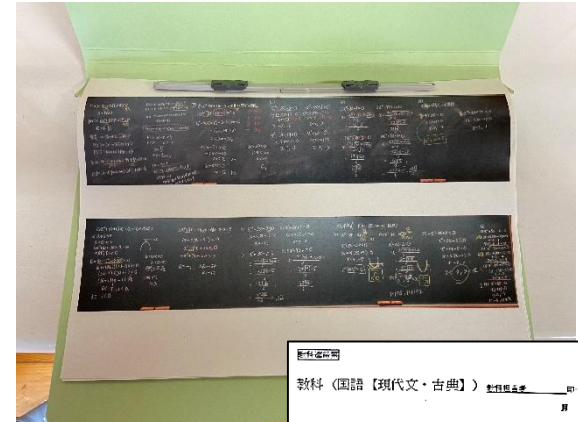
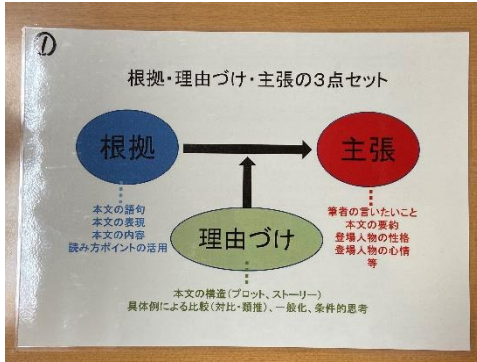


※見やすいノートにつながるよう、板書を整理しながら記入できる「6ブロックに分けたA4のノート用紙」を作成し、生徒に配付した。

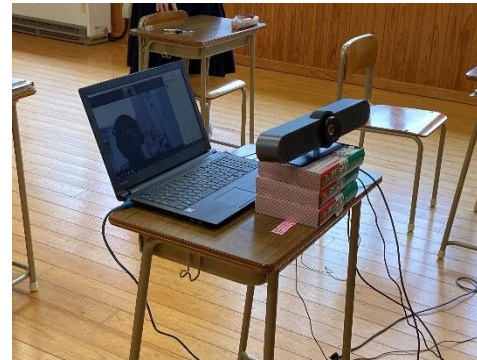
※使い方

前時の復習	本時の目標	例
例・演習	例・演習	例・演習

授業づくりにおける工夫



※教材・教具の工夫



※ICTの活用

新年度開始
 教科 (国語【現代文・古典】) 担任氏名 _____ 印
 年 月 () 曜日

名前: _____

授業の記録簿 (授業内容)

教材・テキストなど	ページ	確認印

欠席までやっていくべきこと (欠席時)

教材・テキストなど	ページ	確認印

※上記の漢字名が合わざったら漢字名を担当者にもらうこと。

※欠席者への対応

環境づくりにおける工夫

登校後の手順

- ① 手指アルコール消毒
- ② 荷物の整理
- ③ 健康観察ファイルの提出
- ④ スマートフォン提出
- ⑤ 生活の記録(青色の冊子)の提出
- ⑥ 読書の準備

<ロッカーの整理の仕方>

プリントは、きちんとファイルに綴じる。
 ・教科書とファイルは立てた状態で並べる。
 ・体操服は、きちんと畳んで入れる。

美しい環境にいると、
心も美しくなるよ!

自分の家と同じように、教室もきれいにしよう!

↑ 後方掲示板
(教科連絡用ホワイトボード)

← 「授業の心得」

※ 学校生活における
ルール、手順、モデル等の掲示

教室掃除の手順

5分前からの片付け、掃除機かけ、拭き掃除

1. 扉板
 - ① 扉板をきれいに拭く
2. 床
 - ① 扉板下のそうきん掛け (扉と扉の裏面まできれいに拭く)
 - ② 床全体のそうきん掛け (扉板の裏面は、モップがけがよい。モップがけは、床が乾くまで拭き掃除をしない)
 - ③ 扉板裏のそうきん掛け (扉板の裏面まで、しっかり拭く)
3. ロッカー
 - ① 扉板、扉の上には拭き掃除をしない
 - ② ロッカーの教科書ファイルは、ブックスタンドを立てた状態で並べる。ロッカーの扉の上は、拭き掃除をしない
4. 窓 (※必要に応じて)

5S活動

- 1 整理 (不要なものは捨てる)
- 2 整頓 (分別、並べる)
- 3 清掃 (きれいにする)
- 4 清掃 (継続)
- 5 しつけ (習慣化)

授業の心得

- ① 時間の遵守
 - 授業はチャイムと同時に始まります。授業前に教科書等を机の上に準備して先生を待つこと。
- ② あいさつ
 - 授業の開始と終了時の「起立・礼」はしっかりと行うこと。
- ③ マナー
 - 授業はきちんとした姿勢と態度で進むこと。
- ④ モラル
 - 授業内容を理解しようと努力すること。
 - 授業中の勝手な私語は慎むこと。
 - 授業中の居眠りや飲食は厳禁。
- ⑤ ルール
 - 授業中、やむを得ず席を離れるときは、授業担当の先生の許可を得ること。

Ⅲ 取組の振り返り

※学びのUDアンケート結果及び本事業まとめアンケートによる教職員の回答をもとに整理しています。

※回答者数：8人



教職員個人について



意識の変化

- ・授業者と参観者双方の授業改善につながる授業研究会の実施や、サポートチームの活用・指導助言を通して、「学びのUD」の重要性を学ぶことができた。
- ・今回の事業で、先生方が授業の中でねらいに向けて、声かけ、板書、学習形態などいろいろな工夫をされて取り組まれていることを学び、私自身も生徒が分かりやすいためにはどうすればいいかを考えながら、集団や個別指導の中で生かしていきたいと思った。
- ・研究授業を参観したり、学びのUD化について協議する中で、誰もが学びやすい環境を整備することの重要性やそのためにどのような工夫が必要かを深く考える機会ができたことで、様々な手立てを実践することができた。
- ・他教科の先生と、より話をするようになった。
- ・これまで教員になって取り組んできたことをもう一度しっかりと振り返るようになった。

授業改善の取組

- ・「学びのUD」の視点をもとにして、ねらいに応じて様々な学習形態の工夫を行っていくようになった。
- ・これまで以上に、一人一人の生徒のプリントの記入状況や整理の仕方を、念入りに確認している。
- ・これまで、あまり意識していなかった授業の振り返りをやるように心がけている。
- ・授業の目標提示や振り返りを行うことで、生徒の内容定着の確認ができた。
- ・内容や目標、流れ等の掲示物を活用することによって、板書の構成の工夫にも繋がり、自分の授業の改善を考える良いきっかけとなった。
- ・生徒の当たり前前にできると思っていたことが、実は苦手なことだと気付くことができたので、誰にでも分かりやすく、学びやすいよう授業の工夫・改善をしようと考えようようになった。
- ・学習プリントやパワーポイント教材を工夫することで、板書の時間を軽減でき、単元のテーマについて考えたり、仲間と話し合う時間を確保することができた。

教職員全体について



コミュニケーションの高まり

- ・授業の在り方について、これまで以上に、職員間で話をするようになったと思う。
- ・職員室でも授業の振り返りの仕方や教材の整理の状況等について意見を交わしたり、共有したりする場面が増えた。
- ・生徒について、また指導法についてより話をするようになった。
- ・職員室内での教職員間のやり取りがさらに活発になった。

共通理解、共通実践への意識の高まり

- ・職員間の共通理解が進み、ベクトルをそろえて進めることができつつある。
- ・職員がUDの視点から授業を工夫する姿勢が高まった。
- ・本校教職員の「学びのUD化」に対する理解が深まるとともに、生徒たちの「生きる力」の育成を目指していこうという意識の統一をさらに図ることができた。
- ・取組が先生方によってまちまちだったところがあったが、今回の事業によって学校全体として同じ方向に取組が進められるようになったと感じた。

生徒について



学習意欲や学習内容の理解の向上

- ・「授業の心得」にしたがって、落ち着いて授業に臨むことができるようになってきた。
- ・「授業の心得」五箇条を活用することで、生徒自身も授業を受ける際の準備や授業への取り組み方、心構え等の意識の変化が見られるようになってきた。
- ・学習の見通しをもって授業に取り組めた。
- ・授業の流れを理解し、今すべきことが分かるようになった。
- ・受動的な参加ではなく、主体的に授業に参加している様子があった。
- ・授業の初めの内容提示や振り返りを行うことで、授業の焦点を意識して授業へ取り組む姿勢が見られ始めた。
- ・保健室で、「授業が分からない」と話す生徒が、昨年と比較して少なくなったように感じている。

プリント整理の上達

- ・プリント等を整理できるようになった。
- ・バラバラにしていたプリントを、以前よりは、意識してファイルするようになった。
- ・プリントの整理の時間を確保したり、プリントに番号を振ることで以前に比べ整理の仕方が改善された。
- ・授業プリントを時間内に整理、確認をすることでプリントの紛失は減少した。

望ましい集団の雰囲気の高まり

- ・昨年度は不適切な言葉遣いやコミュニケーションスキルの不足から生徒間でのトラブルがあったが、「人間関係づくり」の面で、人が分からないことや間違いを見下したりしないようにする受容的な環境ができてきている。
- ・一人一人の個性や違いを認め合える雰囲気や、分からないことや間違いを否定的に見ない雰囲気ができた。

今後に向けて

- ・後方掲示板の設置により、生徒たちが予定を自ら確認するようになったので取組を継続させたい。
- ・教室後方の教科連絡用ホワイトボードは、来年度は全学年に広げたいと思っている。
- ・これまでは、授業の振り返りをほとんどやらず、次の授業の最初に前時の復習をしていたが、現在では、両方やることによって定着を強化している。
- ・今後も、授業の初めの内容提示や振り返りは行っていこうと思う。
- ・単元や本時の初めに目標や学習の流れを示し、見通しを持てるようにすることは、継続して取り組みたい。
- ・電子黒板が近々学校に導入されることになっているので、今回の学びを活かしてICTの効果的な活用と学びのUD化を関連させた授業づくりに取り組んでいきたい。
- ・ICTを更に活用し、提示する内容を視覚的により分かりやすく、工夫していきたい。
- ・パワーポイントの文字をUDに対応したフォントに変え、文字の大きさもできるだけ大きく示した。また、学習プリントと関連させることを容易にするため、空欄には番号を振ることで板書をとりやすい環境を作れたことは効果があった。

各種研修会や合評会等を通して、生徒対応や授業づくりに関する職員間の意見交換が活発になり、組織のまとまりも更に強くなりました。分かりやすい授業づくりを追求して様々な工夫を少しずつ積み重ねていくことが、生徒の「落ち着きや主体性の高まり」「お互いを認め受容し合う雰囲気」「プリント類の整理の習慣化」へとつながっています。



一人一人が輝く分校生



「生きる力」の育成のために、
すべての子供が安心して学べる
教育環境の整備を進めていきましょう。



BGM: MusMus

Kumamoto Prefectural Education Center